

宮崎県ドクターヘリ就航

今年4月、宮崎県救急医療の核となる
救命救急センターの開所に続き、ドクターヘリが就航。
救命率の向上や後遺症の軽減に大きな期待がかかります。



転院搬送には車で90分を要して
ました。重篤な患者さんにとって
は、搬送されている時間が大きな
ストレスになります。わたしたち
医師もそのことを考えると、送り
出すのにもどかしい思いがありま
した。ところが、ドクターヘリな
ら約15分に短縮。しかもヘリには
医師が搭乗するので、現場に着い
た瞬間から治療を始められるとい
う大きな利点があります」

ヘリ要請は消防機関

このような転院搬送にも貢献す
るドクターヘリ。さらに大きな期
待がかかるのは一刻を争う交通外
傷や急病などの緊急時です。現場
に最も早く駆けつける消防の救急
隊。ドクターヘリの出動要請は救
急隊の判断に委ねられています。
救急隊を抱える串間市消防本部の
井上雄次消防長に話を聞きました。
「ドクターヘリの要請には一定の

基準がありますが、実態より重症
とみなすオーバートリアージを導
入しています。軽症に見えるよう
でも、かくされた重篤なものがあ
るかもしれない。だからこそ、**1人でも多くの命を救おう**という考
えです」と井上消防長。市民の命
を最前線で守ってきた救急隊に『ド
クターヘリ』という新たな選択肢
が増えたことで、さらに大きな利
点を感じています。井上消防長は
「要請から約15分で現場に医師が
来ることで早期に、しかも最適な
治療が施されます。処置が早いだ
け、患者の回復も早い。というこ
とは、その方が早く社会復帰でき
るわけです。命を救う以外にも大
きな意味があるのです」と期待感
をにじませます。

ドクターヘリと医療機関、そし
て消防機関との連携により、県の
救急医療は大きく変わろうとし
ています。

Interview

もしもに備え訓練しました

ドクターヘリ就航に先がけ串間市では3月30日、実際にヘリを出動要請
しての連携訓練を行いました。福島川の河川敷で交通傷害が発生したと
の想定です。訓練では、119番通報により消防隊が現場に急行。患者を
収容後にドクターヘリを要請するという流れです。ヘリ到着後、救急隊と医
師が連携してどう医療を開始するのか、また周囲の安全を確保する支援隊
との連携はどうか。想定と実際に要する時間のタイムラグはどうかなどを把握
するうえでも有意義な訓練でした。訓練に臨んで改めて感じたのは、ヘリ
の音が大きいということ、離着陸時には風じんがすごいということ。市民の
皆さんにはこのような影響があるということをあらかじめご理解いただきたいと
思っています。



串間市消防本部

井上雄次消防長



4月9日、宮崎市にある宮崎大
学医学部付属病院救急部に『救命
救急センター』が開設されました。
さらに同病院を基地病院として同
月18日、宮崎県ドクターヘリが運
行を開始。県内の市町村から同病
院までの搬送時間は大幅に短縮さ
れました。

ドクターヘリの利点

ドクターヘリは、救急専用の医
療機器を備え、医師や看護師が搭
乗して救命医療を行う専用のヘリ
コプター。このヘリは、宮崎大学
医学部附属病院に常駐し、消防機
関からの出動要請により救急現場
に向かいます。



串間市民病院内科
早川学医師

ドクターヘリの導入によって医
療現場はどう変わるのか、宮崎大
学医学部地域医療学講座に所属し
地域医療の充実に貢献された串間
市民病院内科医師の早川学先生に
話を聞きました。
「これまで、当院から付属病院への